

感染予防 困っている人たちへ活用を
高校生が手作りマスクを市へ寄附

北秋田市在住の佐藤華南さん（能代高校3年生）が、4月3日に市役所を訪れ、手作りマスク30枚を寄附しました。佐藤さんは、身近にもマスクが買えず困っている人を知り、自分でもできることはないかと考え、休校期間中に1日1枚マスクを作成し、大人用15枚、子ども用15枚の合計30枚のマスクを市役所へ寄附しました。佐藤さんは新型コロナウイルスについて「早く終息してほしい。一人ひとりが予防するしかないと思う」などと話しました。寄附されたマスクは、市の施設など必要な場所に配布され、感染予防対策に利用される予定です。



感染予防 こまめな手洗いをしましょう！
市内保育園でも感染予防対策を徹底

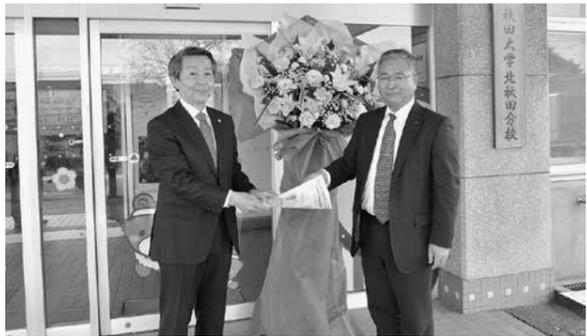
新型コロナウイルス感染症の拡大により、不要不急の外出の自粛や三密（密閉空間、密集場所、密接場面）を避ける、マスクをつける、こまめに手を洗う、換気をするなどの予防対策が大切になっています。

市内の保育園などでも玄関や保育室の子どもたちが触れるものや場所の消毒、換気、園内への入室制限で感染予防を徹底しています。認定こども園しゃるーむでは、子どもたちが元気よく遊んだあと、それぞれ順番に仲良く手洗い場に並び、爪の間まで石鹸で丁寧に手洗いをして、感染予防をしていました。



花の寄贈 お花で市民の心を和らげる
J A秋田たかのすからお花の寄贈

J A秋田たかのすの齋藤一志組合長が、3月31日に市役所を訪れ、「花と食で秋田を盛り上げよう運動」の一環として県産の花を利用したフラワーアレンジメントを寄贈しました。今回の運動は新型コロナウイルスの影響により、花き、牛乳、畜産物などの需要が落ち込んでいることから、県とJ Aグループが主催となり、消費拡大に取り組むとともに運動の周知を図っています。津谷市長は「新型コロナウイルスで緊張を強いられている中、素晴らしいものを贈っていただいた」などと述べました。



合格報告 後進への指導も力をいれて
第43回救急救命士国家試験合格報告

第43回救急救命士国家試験に合格した北秋田消防署の藤嶋梢平さんが、4月3日に市役所を訪れ、津谷市長に合格報告をしました。藤嶋さんは約半年行われた研修を経て、3月8日に行われた国家試験に合格し、市としては26人目の救急救命士となります。これからの抱負を聞かれ藤嶋さんは「どんどん新しい病気や災害が増えている。これから続いてくれる救命士に意欲をもって進んでもらえるよう、指導しながら頑張っていきたい」などと述べました。



協定調印 地域産業の活性化を目指す
森林・木材活用地域連携に関する基本協定調印式

森林・木材活用地域連携に関する基本協定調印式が、3月18日に市役所で行われ、関係団体が森林環境譲与税を活用した地域連携事業に取り組むための協定書を交わしました。調印式では、津谷市長のほか、関係団体である秋田北鷹高校の青山仁校長と秋田スギネットワークたかのすの藤島二三夫会長がそれぞれ署名をし、協定を締結しました。協定締結にあたり津谷市長は「本協定を契機として、林業・木材産業を軸とした地域産業の持続した成長を目指して取り組みを推進していきたいと考えている」などとあいさつを述べました。

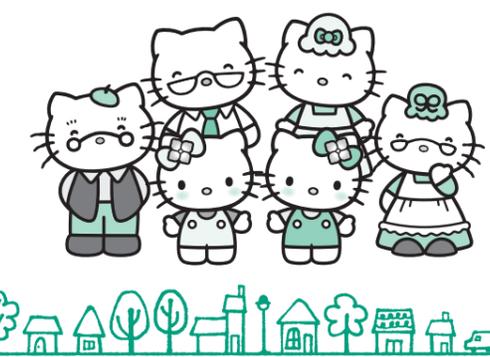


交通安全 子どもたちの安全を願って
「シースルー子供傘」贈呈式

鷹巣地区安全運転管理協会（小林郷司会長）と鷹巣地区事業主交通安全推進協会（佐々木孝憲会長）から、鷹巣地区の小学校へ入学する児童に「シースルー子供傘」100本が寄贈され、その贈呈式が3月26日に市役所第二庁舎で行われました。両団体から、鷹巣地区の新入学児童が交通事故に遭うことなく、元気に通学できるようにとの願いを込めて平成29年から教育委員会を通じて寄贈されています。寄贈を受けた佐藤教育長は「昨年子どもたちの通学時の事故はなかった。子どもたちの安全を地域の皆さんが支えてくれているおかげだと思っている」などと感謝を述べました。



市内のいろいろな出来事を紹介します



感染予防 市民の感染予防に活用を
あきた丸ごと開発株式会社から除菌剤の寄附

新型コロナウイルス感染症の予防対策として、あきた丸ごと開発株式会社（笹谷博久代表取締役）から除菌剤の寄附があり、代表者らが3月18日に市役所を訪れ、津谷市長に目録を手渡しました。今回、あきた丸ごと開発株式会社からは除菌剤20リットル15箱の寄附を受け、津谷市長は「新型コロナウイルスが猛威を振るう中、大変ありがたいものをいただいた」などと感謝を述べました。寄附された除菌剤は市内の公共施設・小中学校などに配布し、新型コロナウイルス感染症の予防に活用されます。

